

多機関連携・協働とアジャイル型手法による 学習観転換科目及び教師の連携・協働科目の開発と改善

調査の概要

◆課題認識

- ・教員養成に関するカリキュラムは、不易部分を維持しつつ、社会的な背景の変化に対応するよう適宜改善されてはいるものの、それは建て増しの改善に終わっている。
- ・育成を目指す教師像から再検討し、グランドデザインを見直す時期に来ている。

◆調査研究の目的

- ・多機関の連携・協働により、自律した教師の養成に必要とされる先導的な教職科目を開発・試行し、その効果検証により改善を図る。

◆調査研究の方法

- ・学習観転換科目群の開発・改善（研究Ⅰ）に関しては、本学に所属する現職教員大学院生に、質問紙調査と聞き取り調査を実施し、収集した言語データを整理して「事例集」を作成し、それを授業の学習材として開発する。並行して、PBL等に先進的に取り組んでいる大学についての調査を行う。
- ・教師の連携・協働科目群の開発・改善（研究Ⅱ）に関しては、連携機関との協働（学校・教育委員会等に対する調査・情報収集含む）を通じて情報収集を行い、シラバスの開発・整理を行う。

取組のポイント・成果

1. 学習観転換科目群の開発・改善

調査1：汎用的学習材としての「事例集」作成のためのデータ収集（質問紙、聞き取り）

- ・変容的学習に関する3類型（「パースペクティブの変容低認識群」「混乱的ジレンマ低認識群」「変容的学習認識群」）を同定。
- ・学習観転換の契機や過程等の具体的様相を把握。事例のもつ豊かな利用可能性を確認⇒**学習材としての「事例集」の作り込みへ。**

調査2：授業のデザインと試行実践に向けて課題等を洗い出すためのデータ収集（Web調査、ヒアリング調査）

- ・PBLをカリキュラムの中心に積極的に位置づけている3大学に関するWeb調査から、「**ステップ・集中型**」と「**パラレル・段階型**」という2つのカリキュラムを措定。
- ・学習観の転換とそれに基づく授業のデザインを行ううえでの課題を析出していくため、先行するPBL教育実践を「深く」調査。

2. 教師の連携・協働科目群の開発・改善

- ・学校内外での組織的対応や価値観・専門性の多様性を活かした活動を進める上では「制度」「場」「人」に関する理解と、それぞれが機能するためのコミュニケーションに向けて互いの違いと共通性を理解するような学びを提供することが、今次の学校課題に対応する人材育成にとって有効。

調査：先行研究による指摘の整理。及び、開発する科目毎に、専門家や専門機関に対するインタビュー等

- ・「題材に関する学び」「仕組みに関する学び」「見え方（視点）に関する学び」の3点を構想。
- ・具体的な場面に関するケース教材を用いたPbBLを実施することとし、「子どもの安全と学校組織」「教師の連携・協働と学校経営」の2科目で活用できるPbBL課題を開発。
- ・「多機関連携と学校防災」については防災にかかる教育課題を実践者として取り扱うことができるようPjBLの要素を導入。

今後の課題

1. 学習観の転換に関連して：どのようにして学習観が転換したことを測るのか、事例に基づく授業展開を効果的にファシリテートする大学教員の力量をいかに高めるか、少人数での活動を支援するチューターをいかに養成するか等。
2. 教師の連携・協働に関連して：連携を想定する自治体・企業等との調整を進め、具体的な講義・演習内容を更に改善。